


 ストロークと音の掛け算
 「場」の再現から新しい書物へ

会議やミーティングなど、複数の人間から構成されるコミュニケーションの「場」をさらに創造的刺激にあふれたものとするために、あるいは発話をきっかけに始まるアイデアの広がりを追求するために、本当に必要なツールとはどのようなものか。昨今、そうした「場」でなかば常識化しているパソコンによる議事録やメモといった情報記録のスタイルから離れ、もっと自然で強い想起力を持つ情報蓄積や再生の仕組みを考えてみた。それがペンと液晶ディスプレイにオーバーレイされた透明タブレット上に描かれるストローク筆の動きと、そしてこの動きにシンクロするかたちで音声を記録する電子文房具である。

前号の記述を繰り返すことになるが、それは次のようなかたちで利用される。会議の席上で紙にメモを取るように、私はこの文房具を使って思いついたことを落書き的に描いていく。会議終了後、この記録を再生すると、図形や文字を描くストロークの動きと音声という2つの表現要素の掛け算によって、私は会議の「場」で発話が引き起こした思考のプロセスを追体験し、そこで触発され、ひらめいたアイデアを思い浮かべる。そして、私は再度このアイデアの可能性を新しい環境で発展させることができる……というのがこの文房具を支える思考スタイルである。

ただし、これはあくまでも1人のアタマのなかで起こる作用を中心に考えたものに過ぎない。すなわち会議のなかで浮かんで消えていったほのかな記憶、しっかりと記憶に留める前にこぼれ落ち、無意識の領域に沈んでしまったひらめきを再びすくい上げるという立場から見た展開である。もちろん、このコラムでつくづく言い続けている「協調的創造」というテーマに沿って言えば、こうした文房具で作成されたドキュメントを、その「場」を共にした他人に手渡し、彼がそれを再生する……つまり「場」を改めて違った視点で追体験する……などのことが起こるか、それこそが注目すべきポイントである。

同じ会議などの「場」を共有した経験を持つ人間がこうしたドキュメントを受け取った場合、音声の展開に沿って事態の成り行きを思い浮かべつつ、そこに描かれていくストロークのパターンが意味するものに意識を向けることは難しくないだろう。音声を聞きながら、「ああ、この話題の時に自分はこう考えていたのだが、このドキュメントを書いた人間はそんなことを思いついていたのか……」というかたちの発見があるに違いない。時として新しい解釈が健全な誤解から生まれることを



考えれば、こうした触発の機会を積極的に利用すべきであることは言うまでもない。

だが、相互触発をよりフォーカスの定まった方向へ導こうとするなら、音声という共通のベースライン以外に、たとえば会議を主導するプレゼンターが用いるプレゼンテーションツールの映像……よく利用されるPowerPointのスライドなどを、事前にこの文房具にドキュメントとして取り込んでおいたほうが効果的だろう。

あらかじめ準備されたアウトラインテキストや図解などは、ともすると意識が発散しがちになる会議などの場において、全員の浮遊する意識を着地させる黒板的な機能を果たすことになる。

会議などに先立ってフォーカス設定のガイドとなる情報を組み込んで電子文房具のディスプレイ上に表示しておき、音声のガイドとともにこの思考空間を体験する。そして参加者全員がそれぞれの立場からこれに触発された痕跡を残す。さらに会議終了後、立場を変えてこれらの痕跡を追体験することで新たなインスピレーションを獲得し、さらに追記することができる……。

あえて言えば「場」の共通体験がなくても、こうしたかたちで繰り返しインスピレーションを追記し、触発を受け続けていくことも考えられるだろう。

問題はこうした機能を実現するメディアと作法の統合である。そしてこうした「読み・聞き・描き」の可能なドキュメントが登場してはじめて、私たちはゲーテンベルク以来閉じ込められてきた筆者と読者という固定的関係をかたちづくる紙のシミの世界から解き放たれ、新たな創造的コミュニケーションの「場としての書物」の可能性を手にするようになるのではないか。



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp